

第4回「鹿児島港本港区エリアまちづくり検討委員会」 結果概要

1 開催日時・場所

平成30年11月6日（火）午後1時30分～午後2時30分
ウェルビューかごしま2階「潮騒」（鹿児島市）

2 会次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ① グランドデザイン案について
 - ② その他

3 結果概要

(1) グランドデザイン案について

「グランドデザイン案」について、一部修正を行った上で取りまとめることが了承された。

(2) その他

今後、一部修正後の「グランドデザイン案」を「報告書案」としてまとめ、各委員に内容を確認の上、委員長から知事へ報告することで了承された。

4 委員会からの主な発言（要旨）

(1) 中心市街地との関係・規制緩和

- ・ 中心市街地との連携及び他都市との差異化について、既存の中心市街地との共存の観点や、他の都市というよりも既存の中心市街地の商業施設との差異化を図って、独自性や回遊性というものも含めて表現したほうがいい。
- ・ 融和性や回遊性、共存ということはあるが、お互い競争して両方発展していく、あるいは補完的な関係という形で相乗効果が出ることのほうが、共存よりももう少しダイナミックになるのではないか。
- ・ 土地利用規制の見直しについては、表現が修正されたが、緩和前提の表現であり、まだ委員会の方向性と異なるように思う。現状の規制を継続することも考えてよいのでは。
- ・ 土地利用規制の緩和等を検討するに当たっては、まず規制のあるべき姿を考えるべきではないか。
- ・ 大型商業施設について、既存の施設に加え今から（市街地で）着工する施設もあるので、このエリアではもっと他の集客施設を考えた方がいい。
- ・ この敷地（エリア）をどういう形で有効活用しようとするかというところに関心が集中しているが、もう少し広いところの分析の中で位置付ける必要があるのではないか。

- ・ (天文館と)WIN-WINというが、大型商業施設がもしできたとしたらパイは同じなので、そこでの売上げが増えたら(他のエリアが)低くなるとか沈むに決まっている。
- ・ ゾーニングにおいて、本港区エリア内だけの回遊性の向上となっているが、これまでの議論の中で天文館地区との関わりや回遊性の向上というのも出ていたので、この矢印を既存の市街地に回すことを検討いただきたい。

(2) 路面電車観光路線

- ・ 臨港道路南北ふ頭線については、路面電車の基本方針を踏まえると海に近い南北方向の道路が必要なので、その存続を明示してほしい。
- ・ 市電のルートについても色々な関係者が集まって、この辺の渋滞の問題も含めて話し合うべき。
- ・ 路面電車について、道路ではなく、緑地の中を走るといったことも今後検討いただきたい。

(3) 港湾機能

- ・ 臨港道路は港湾機能の一部だという認識があるので、全体の中で関係者が集まってどうするか話をしないと、ここで廃止を認めるみたいにかかれると非常に困る。
- ・ 北ふ頭については、クルーズ船が入ってきたときにラグジュアリー層が真っ暗な倉庫を歩いて通ってくると鹿児島は三流だと思われることになるので、その改装だけは手がけていくべき。

(4) まちづくり全般

- ・ 例えば魅力的な市電が走って、魅力的な停留所があり、そこから人が歩けるような通りがあるなど、そういう魅力的な開発をやってほしいということ、ビジョンとして描くということがあってほしいと思う。
- ・ 緑地がいい形で整備されたとして、その中を路面電車が通り、そこにトラムのためのモールが広がっていくようなまちの広がり方もあるのではないかな。
- ・ 市民目線で見えることを第一に考えることが大事だと思う。市民目線で見ると、このエリアにそぐわないものができたら大変なことになるので、そのままにしてほしいというのが大半の意見だと思っている。
- ・ まちづくりには公共性が重要で、パブリックな視点とビジネスの視点と両輪なければいけない。民間の誘致に頼るといって終始し過ぎると良くないと思っている。
- ・ 住吉町15番街区については大きな広場であり、拙速にやると問題が出てくると思うので、じっくりと時間をかけて考えるべきではないかな。